

やまゆり

学校だより

令和5年5月18日
12号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究主題 「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点目標 「生徒の良さを伸ばし、課題を解決するための連携」

大きな成果を残した2年生の横浜宿泊学習

5月15日(月)、16日(火)の一泊二日で2年生が横浜への宿泊学習を実施しました。

「主体的・協働的な活動をする」と、「持続可能で発展できるふるさとづくりに貢献する」ことを高いレベルで達成する素晴らしい宿泊学習をすることができました。

特に、ヨコハマSDGsデザインセンターでは、「今までの研修に参加した学校の中で一番質の高い発言が出来る学校」と講師の竹田さんに評価していただきました。※ 次号で紹介

道志菜を桜木町の「サミット」(食品スーパーの店名)で販売する活動を始め、「防災センター」や「学級の時間」等で、主体的・協働的に行動しようとする姿を随所で見ました。まさに、日常生活の中で、①自分なりの達成感がある活動、②他者から認められる活動、③人が嫌がる言動をしない、④協働して孤立しない等の活動を学校の外でも発揮することが出来ました。

昨日4校時の解団式での生徒の振り返りのことば

- 自ら主体的に活動し、他の人も様々な場面で一生懸命活動していることが感じられた校外学習だった。
- サミット(道志菜を販売した店)で、苦手としていた大きな声を出して販売する努力をすることができた。ウッドストロー(横浜市水道局の管理する山の間伐材でつくった木のストロー)について学んだヨコハマSDGsデザインセンターで、質の高い意見を言えたのは、持続可能なふるさとにするためにはどうしたら良いかを自分の事としてしっかり考えていたからだと思う。
- 「誰かが話してから話せばいい」と思っていたけれど、自ら発言することを高く評価されて主体的に発言することの大事さを実感できた。また、協働という観点では、道志菜を協力して販売し完売できた。深く考え、より良い道志村のために今後も努力したい。
- 主体的に活動するところでは、道志菜を販売する時にその良さや特徴を伝えられたと思う。水に関すること以外にも道志の森林で横浜とつながっていることを新たに学んだ。防災センターでの学びを、学校での縦割り班活動に生かすことができると思った。
- 「防災センター」でどのように避難所運営をできるかを考えることで協働できた。一人一人が主体的に意見を出し、みんなが受け入れて協働できた。ウッドストローも道志村のSDGsの学習に

生かしたい。周囲を見ながら行動することが苦手だが、日常生活で主体的に活動し新しい自分づくりに挑戦したい。

○他の人と比べないで、自分なりに主体的・協働的な活動を発揮できたと思う。

※言葉に詰まった生徒に対して、他の生徒が様々な助言をしていた。今までは、他の生徒もただ困って聞いていただけだったと思う。しかし、他校ではこういう状態に援助してくれる生徒がいる。困った人に手を差し伸べたり、援助できる本物の思いやりと行動力がついたと思った。

○今までの自分は、考えていたことを声に出して表現することが苦手だった。しかし、この宿泊学習を通して、自分の思いを言葉で表現し、主体的に活動する事ができた。SDGsデザインセンターで評価されたのは、学年の仲間と支えて下さった方々、臨機応変に対応して下さった方々等のお陰だと思う。避難所運営ゲームは、全校の縦割り班や構成的グループ等で活用できると思った。

○道志村の維持発展について様々な点から学び活動できた。SDGsの観点は、「自然」が中心だと思っていたが、ジェンダーレスや雇用問題等の人的な環境も重要であることが分かった。課題設定をどうするかが、今後の大きな課題だと思う。また、この宿泊学習の大きな成果は、私たちを支えて下さった方々、予定外の行動をして下さった富士急行の方々、引率の先生方、見送りをして下さった保護者・先生方、事務で支えて下さった上芝先生等のお陰だと思い感謝したい。

大変な事ばかりの教職員ですが、一番のやりがいは苦勞しても「生徒の成長の場面に立ち会える」ことです。事前・事中・事後指導も含め、学年職員と生徒が一丸となった活動、そして、真摯な態度に感銘を受けました。

「指導していただいた恩は、指導内容で返す」。素晴らしい本日の解団式でした。

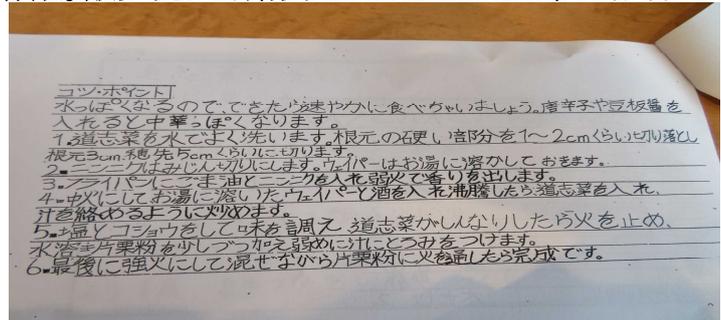
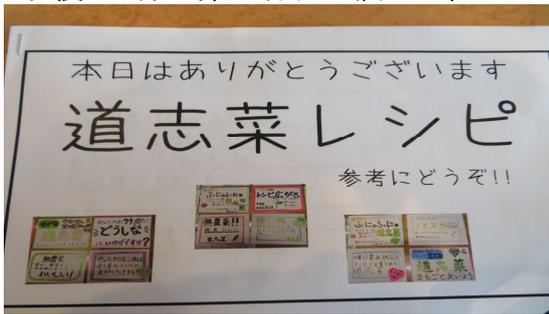
道志菜を横浜の桜木町の「サミット」で30袋(6キロ)を完売した様子



事前に月夜野の湯川さん・太田さん・森本さんに協力して頂き畑で道志菜を収穫体験しました



収穫した菜っ葉を各自で調理し、レシピを作成。販売促進や購買していただいたお礼に配付



クーラーボックス3個で冷やし、菜っ葉の新鮮さを保ちながら輸送しました



桜木町駅

販売に協力していただいたサミット

太田さん・森本さんの歓迎



サミット店長の西村さん

森本さんが作成して下さいました

お客さんの購買の様子



約30分で完売しました



最後の10個がなかなか売れない



思わぬプレゼント

左の方は、小さい頃道志村で育ったそうです。道志川で遊んだ記憶があり、あらかじめ準備して道志中の生徒にハンカチをプレゼントして下さいました。感激でした。

神奈川新聞・テレビ局の取材を受けました



神奈川新聞の記事内容

道志村を水源地とする横浜市を販売会場に選んだという。この日のためにポスターを製作した。
地元野菜の魅力を感じ、収穫から販売までを手がけた生徒たちの表情は笑顔にあふれていた。渡辺脩大さんは、「道志の魅力や道志で採れる野菜のおいしさを初めて知ることが出来た」と胸を張る。山本桜之朗さんも「今度は道志村の観光地も広めたい」と目を輝かせた。高村江里子教諭は、「野菜の収穫等を通して自分の言葉で語る貴重な経験ができた」と優しいまなざしを送った。

森本さんにお教えいただいたポップの実用例

サミットでは実際にポップで販売好調とのこと



昼食は、ワシントンホテルのコース料理でした。料理だけでなく、眺望も素晴らしかったです。



15歳の提言に活かせるよう「ヨコハマSDGsセンター」「防災センター」での学びも次号で紹介予定

